

第7回技術交流会

福島原発事故に見る科学技術立国 の危うさ

世界に醜態をさらした安全神話の崩壊

2013年 5月22日

1. 略歴
2. 事故以前の状況
3. 事故後の対応
4. 今後のあるべき姿

1. 略歴 (1/2)

昭和41年 熊大工学部電子工学科卒、日本無線(株)入社
計測・制御システムの設計・施工に従事

<主要事例>

建設省・電力会社向けダム管理システム

(石手川ダム、大井川ダムなど)

全日空、航空局向けフライトシミュレーター

(B-727、DC-9など)

フィリピン気象庁(PAGASA)向け 台風予測システム

(ODA案件、気象レーダー5基)

シンガポール海岸局(テレコム)向け 港湾監視システム

(船舶の交通整理)

新日鉄八幡製鉄所向け圧延ライン監視システム

(SUS厚板ライン厚み計測)

平成5年 国家資格「技術士」取得。電気・電子部門

1. 略歴(2/2)

平成9年 日立アロカメディカル(株)へ移籍
医療計測システムの開発・設計に従事

<主要事例>

海外試薬メーカー向けOEM免疫分析装置
(血液のアレルギー成分分析)

検査センター、大学病院向け検体処理システム
(採血管自動搬送ロボット)

日本赤十字社向けNAT(核酸増幅)検査システム
(献血検体のウイルス検査)

平成19年 日立アロカメディカル(株)退社。

技術士事務所「大野システム技術研究所」設立

平成20年 東京都中小企業振興公社より中小企業支援
業務を受託。現在に至る。

2. 事故直前の状況

原子力発電を巡る平成19年～平成22年頃の論調：
推進擁護一直線、安全神話の形成。

原子力立国計画（平成18年策定）：
40%以上を原子力発電とする。

日本技術士会・原子力部会 論文：
原子力導入に否定的論調を「迷信」と一蹴
再生可能エネルギーは基幹エネルギーにはなり得
ないと打破。
安全性については十分に確保済みと強調。

3. 事故後の対応

いきなりの「脱原発」論、「想定外」という言葉の氾濫。

ストレステストとは？

東電、政府、専門家の対応、しどろもどろ

5つの「事故調査・検証委員会」の報告書 ←見直し？

そもそも「検証」とは何か？

なにを「検証」するのか？

技術士機関誌投稿論文に対するコメント：別紙1

M重工開発責任者からの回答

日本技術士会原子力・放射線部会への意見書：別紙2

発注サイドの問題（仕様欠陥）

／受注サイドの問題（設計ミス）

コストダウンで安全性ダウン、リスクアップ

4. 今後のあるべき姿

システム設計論からみた矛盾、責任体制、問題点

1. 要求仕様書／提案書／承認仕様書のプロセス、各文書の内容。

設計は承認仕様書通りに実行される。それ以上でも以下でもない。

2. 設計、検図、承認のプロセス

盲印ではダメ。まじめに検図・承認しているか？

3. 検証とは、検査とは

検証は設計者の役割、検査は仕様書通りであることの確認。

4. コストと安全性の相関、品質工学の適用

5. 今後のあるべき技術者の姿。

技術者倫理の追求。

6. 政府の戦略会議に対する疑問

以上